

ドウダンツツジの苗増殖・育苗技術

農業総合センター山間地帯特産指導所

【研究の概要】

夏を代表する枝物であるドウダンツツジは、近年、国内外の市場からの需要が高く、県北地域における高収益枝物として出荷量を伸ばしています。ドウダンツツジは、山林に自生している樹から枝を採取して出荷していますが、その生育は極めて遅いため、このままでは資源の枯渇が懸念されています。そこで、県北地域における枝物経営の安定化を目指し、ドウダンツツジの苗増殖及び育苗技術を開発しました。

【研究内容】

- 1 種子や挿し木によるドウダンツツジの苗増殖について、は種適期や挿しつけ適期等を調査しました（図1）。
- 2 ドウダンツツジ苗の生育促進技術について、生育に最適な追肥方法や遮光率を調査しました。
- 3 育苗した苗木の植栽方法について、ドウダンツツジの生育に適した環境条件や植栽時期を調査しました。

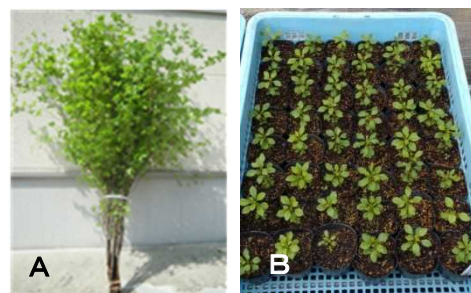


図1 ドウダンツツジ切り枝 (A) 及び生育中の苗 (B)

【研究成果】

- 1 ドウダンツツジの発芽率（図2）や苗の生長量の調査結果から、は種の適期は3月中旬～4月中旬であることを明らかにしました。挿し木の場合は、発根率等の調査結果から6月中旬～7月上旬が挿しつけの適期であることを明らかにしました（データ略）。
- 2 苗の生長量を調査した結果、遮光率を90%程度とし、追肥として微粉ハイポネックス（N-P-K=6.5-6-19）の500倍希釈液を、4～6月にかけて8回程度追肥することで、苗の生長が最も良くなることを明らかにしました（図3・4）。
- 3 育苗したドウダンツツジ苗を植栽する場所は、①山の尾根筋や山頂付近など風通しや水はけのよい環境、②直射日光の当たる時間の短い北～北西～西向きの斜面、③斜度10°以上の傾斜地、④相対照度10%程度の薄暗い環境、⑤土壌pH3～4程度（KCl抽出）の酸性土壌など、ドウダンツツジの自生地に似た条件の環境に植栽することにより、植栽1年後の時点で8割程度の生存率が確保できることを明らかにしました。
- 4 ドウダンツツジ苗1株当たりの生産コストは、試算では実生苗で174円、挿し木苗で226円になりました（データ略）。

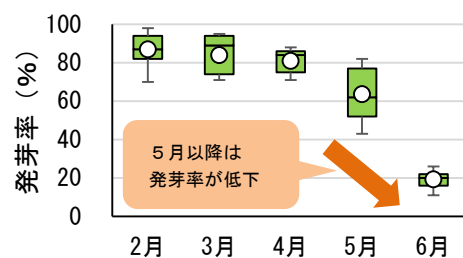


図2 は種時期別のドウダンツツジ発芽率

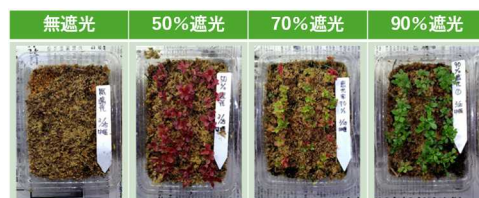


図3 遮光率別ドウダンツツジ苗生育状況
※無遮光区ではほとんどの株が枯死し、50～70%遮光区でも多くの株が紅葉する等、生育障害が発生した

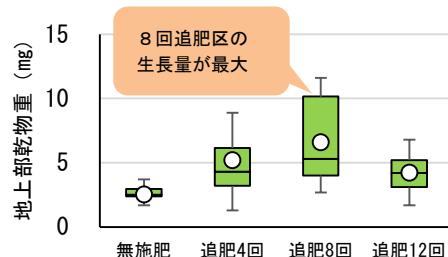


図4 追肥回数別ドウダンツツジ地上部乾物重

【将来の展望】

本成果の他、管理方法等をまとめた苗木生産マニュアルを作成し、公開しています（図5）。本マニュアルを活用することにより、ドウダンツツジの効率的で持続可能な苗増殖が可能となり、県北地域における枝物経営の安定化に寄与することができます。



図5 マニュアル（抜粋）及び掲載QRコード